

小浜島における鳥類の記録について

高原 建二*

Records on Birds, from Kohamajima Island, the Yaeyama Islands

Kenji TAKEHARA*

はじめに

小浜島は八重山諸島西表島の東約2 kmに位置する広さ7.84km²、周囲約16kmの島である(図1)。島の中央やや西側に島の最高峰である99.4mの大岳が所在し、ここは聖域としての御嶽林が保存され、亜熱帯性の常緑広葉樹林がまとまった形で残されている(図版I-1, 2)。なお、小浜島の北方にはその属島としての嘉弥真島も所在する。

小浜島の人口は486人(平成13年度)で、集落は島のほぼ中央に形成されている(図版I-3)が、島の東側のアームルテやナカラレ、びるま崎にはリゾートホテルやゴルフ場等の観光施設が開設されている。また、島西側の細崎岬には漁業を中心とする細崎の小集落がある。

小浜島における鳥類の記録は、古くはOgawa (1905) やKuroda (1925) などの報告がみられる。それ以降の調査記録については資料が乏しく、最近では琉球新報社編(1982) や八重山野鳥の会(1983)、玉城(1985)、高原ら(1996)、Douglas et al. (1996) などの記録が見られるが、その報告は断片的な記録に限られているように思われる。

筆者は県立博物館小浜島総合調査の一環として、冬季に2回、夏季に1回のべ3回島を訪れ、鳥類に関する現地調査を実施した。本報告はその結果を概略的にまとめ、さらに今回の調査結果と、筆者が過去に独自に調査した資料やこれまでに報告されて

いる鳥類の記録をまとめて、小浜島における鳥類目録作成を試みた。

本報告が小浜島に生息する鳥類の概要を理解する一助になれば幸いである。なお、本報告を行うにあたり、貴重な野鳥情報をいただいた神奈川県大和市在住の土方秀行氏、埼玉県越谷市在住の鈴木功氏、調査協力をいただいたはえむるぶしリゾートの佐藤実氏と目仲正人氏に対し感謝申し上げる。

調査地の概要

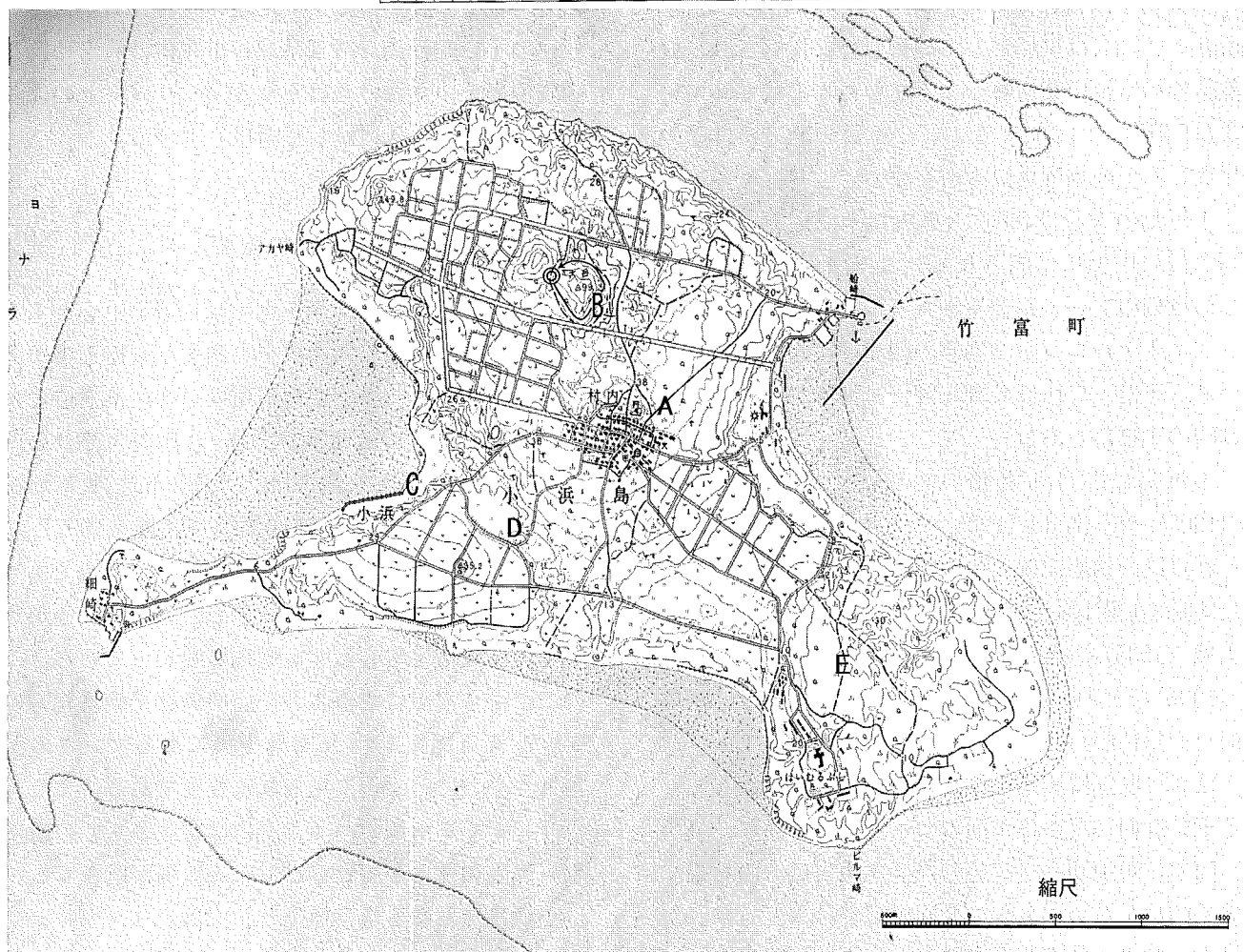
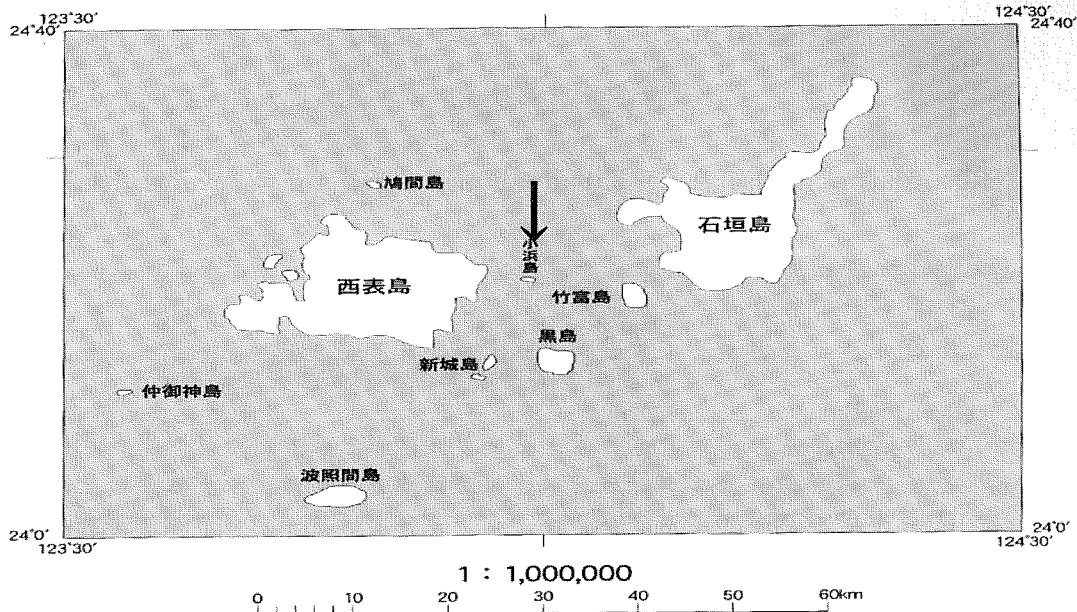
島の主要な産業は、サトウキビ栽培を中心とする農業で、小浜港近くに黒糖を生産する製糖工場がある。したがって、島の土地利用は島の産業構造と大きく関わり、農耕地面積が231haと島の大部分を占め、その内訳は畑地が192ha、水田29ha、牧草地10haとなっている(記念誌編集委員会編 1997)。小浜島はかつては畑地よりも水田面積が多い島であったが、現在では水田面積は減少し、島の大部分がサトウキビ栽培を中心とする畑地に変わっている。このことから水田は集落北方や島中央部や集落北方のヤマング(図版I-4) や島中央にあるマンツの湿地近くなどにわずかに見られる程度である。また、ウリダや島南側のハイダには畜産としての肉用牛(黒毛和種)が放牧されている牧場が所在する。

小浜島における現存植生としては、リュウキュウガキナガミボチョウジ群落、リュウキュウマツ群

* 〒903-0823 沖縄県那覇市首里大中町1-1 沖縄県立博物館

* Okinawa Prefectural Museum, 1-1, Onaka-cho, Shuri, Naha, Okinawa 903-0823, Japan

位置図



(国土地理院発行1/25000地形図改変)

図1 小浜島の位置と調査地 (凡例: A集落 B大岳 C石長田地区 D中央湿地 Eリゾート施設
 — はセンサスライン (◎は起点, ↑終点)

落、マングローブ群落、チガヤーススキ群落、アダン-オオハマボウ群落、リュウキュウチク群落などが識別されている（記念誌編集委員会 1997）。

こうした植生の所在地として、島の西海岸であるスダ（石長田地区）海岸（図版 I-5）には、ヤエヤマヒルギやオヒルギ、ヒルギダマシなどのマングローブ林が広がっている。なお、このスダには護岸内側にもマングローブ林や小河川がせき止められた池沼地も見られ、鳥類の採餌や休息地となっている（図版 I-6）。

一方、アダン-オオハマボウ群落は、島南部の細崎近くの海岸やびるま崎などで見られる海岸林を構成している。

亜熱帯常緑広葉樹の見られる森林地域は、大岳一帯（図版 I-1, 2）や「なかやま（御嶽）」、「なかんどわん（御嶽）」などの御嶽林に残存している。また、島西部や島北部などの周辺地域にわずかに海岸林が残存している程度で森林面積は少ない。島東部はリゾート施設が整備され、宿泊施設やゴルフ場等が開設されているため、芝地の広がる環境で、一部にかつての森林が残存林として残されている。また、島の西方のカウンタレー湾（図版 I-6）は干潮時には干潟も出現するため、鳥類の採餌場所として重要な地域となっている。

なお、本報告で出てくる島の原（はる）名は、記念誌編集委員会編（1997）によった。

調査方法

現地調査は、2002年2月と5月下旬～6月上旬、2003年3月の3回島に滞在し、のべ9日間実施した。調査の際は車両をつかって島をくまなく走り、観察される鳥類を記録した。また、森林地域に生息する鳥類の概要を把握するため、大岳を1周するセンサスライン（約500m）をもうけ、ラインの両サイド50mの範囲で早朝の時間帯に2回のルートセンサス調査をおこなった。さらに、夜行性の鳥類を把握するために、島一円における車両を利用した夜間調査も実施した。なお、調査資料には、筆者自身が過去に独自に調査した資料も補足的に活用した。また、本報告で扱う鳥類の学名は、日本鳥学会編（2000）に準拠した。

結果と考察

鳥類調査の結果、表1に示したように、調査期間内で移入種を含み92種にのぼる鳥類の生息が確認された。以下に今回の観察記録を概観し、各環境ごとに生息する鳥類を概略的にまとめた。

小浜島における各環境ごとに出現する鳥類の概要

1) 海洋や海岸、干潟に生息する鳥類

島周辺の砂浜海岸近くでは、留鳥のシロチドリ、クロサギ、イソヒヨドリなどが生息し、夏季には夏鳥のエリグロアジサシが繁殖のために東南アジアなどの南方から飛来してくる。秋季から冬季には細崎などの海岸や岩礁、護岸でメダイチドリ、ダイゼン、ムナグロ、ダイシャクシギ、チュウシャクシギ、ハマシギなどの旅鳥や冬鳥が観察された。また、島西部のカタレー湾内のマングローブ林や干潮時に出現する干潟などでは、留鳥のカルガモ（図版 II-1）が観察され、他に旅鳥のオグロシギ（図版 II-2）やウズラシギ、冬鳥のアオサギやダイサギ、コサギなどのサギ類やアオアシシギ、クサシギなどのシギ類も観察された。

2) 湿地やため池、マングローブ林、水田など水辺に生息する鳥類

島西部スダ（石長田）の護岸内側に形成されたマングローブ林には小規模の池や湿地があり、ここでは、留鳥のバンやカルガモ、カワセミ、オオクイナ、ムラサキサギ（図版 II-3）のほか、旅鳥や冬鳥のコガモ、セイタカシギ（図版 II-4）、アカアシシギ、オグロシギ、ヒバリシギ、イソシギ、トウネンなどが確認された。

島中央の内陸部にあるマンツの湿地や水田では、留鳥のバンやカルガモ、リュウキュウヨシゴイ、ヒクイナ、ムラサキサギ、ゴイサギなどが生息し、秋季から冬季にはエリマキシギ（図版 II-5）、アオアシシギ、クサシギなどが観察された。また、サギ類ではダイサギ、チュウサギ、アマサギ、アオサギとクイナ科のオオバンなどが飛来して生息していた。

島東部に開設されたリゾート施設内のため池では、留鳥のシロハラクイナとバン、カルガモなどがふつうに生息し、秋季から冬季にはキンクロハジロ、オ

表1 小浜島鳥類調査(集計)

調査日	02.2.25	02.5.29	03.3.6	備考
カイツブリ	○		○	
リュウキュウヨシゴイ		○		
ズグロミゾゴイ	○	○	○	
アカガシラサギ		○		
ゴイサギ		○		
ダイサギ	○	○		
チュウサギ	○	○	○	
コサギ	○	○	○	
アマサギ	○	○	○	
クロサギ	○		○	
アオサギ	○		○	
ムラサキサギ	○		○	
カルガモ	○	○	○	
コガモ	○		○	
ハシビロガモ	○			
キンクロハジロ	○		○	
ミサゴ	○		○	
ツミ	○	○		
ノスリ	○			
サシバ	○		○	
カンムリワシ	○			
チュウヒ			○	
チョウゲンボウ	○		○	
ミフウズラ		○		
オオクイナ		○		
ヒクイナ			○	
シロハラクイナ	○	○	○	
バン	○	○	○	
オオバン	○		○	
シロチドリ	○		○	
メダイチドリ	○		○	
オオメダイチドリ	○		○	
ムナグロ	○		○	
ダイゼン	○		○	
キョウジョシギ	○	○	○	
トウネン		○		
ウズラシギ		○		
ハマシギ	○		○	
エリマキシギ			○	
アカアシシギ		○	○	
コアオアシシギ		○	○	
アオアシシギ	○	○	○	
クサシギ			○	
キアシシギ		○		
イソシギ	○	○		
コオバシギ		○		

調査日	02.2.25	02.5.29	03.3.6	備考
オグロシギ		○		
ダイシャクシギ	○			
チュウシャクシギ	○	○		
タシギ	○		○	
ヤマシギ	○			
セイタカシギ		○		
クロハラアジサシ		○		
エリグロアジサシ		○		
キジバト	○	○	○	
ズアカアオバト	○	○	○	
キンバト		○	○	
コノハズク	○		○	
アオバズク	○			
アカショウビン		○		
カワセミ			○	
ヤツガシラ	○			
ツバメ		○	○	
ツメナガセキレイ	○		○	
キセキレイ	○			
ハクセキレイ	○		○	
ビンズイ			○	
ヒヨドリ	○	○	○	
シロガシラ	○	○	○	
アカモズ	○		○	
ノゴマ			○	
ルリビタキ			○	
ジョウビタキ	○		○	
イソヒヨドリ	○	○	○	
アカハラ	○		○	
シロハラ	○		○	
マミチャジナイ			○	
ツグミ			○	
ヤブサメ				
ウグイス	○		○	
キマユムシクイ	○		○	
ムジセッカ	○		○	
セッカ	○	○		
キビタキ	○	○	○	
サンコウチョウ		○		
メジロ	○	○	○	
カシラダカ			○	
スズメ	○	○	○	
ムクドリ	○			
ギンムクドリ	○			
オサハシフトガラス	○			
インドクジャク	○	○	○	外来種
合計92種	67種	43種	61種	

オバンなどの渡り鳥を見ることができる。

3) 牧草地や農耕地、草原などに生息する鳥類

牧草地や農耕地などでは留鳥のセッカやミフウズラ、ムラサキサギ、キジバト、ヒヨドリ、シロガシラなどが生息する。秋季から冬季にはサシバやチョウゲンボウなどの猛禽類が訪れ、越冬する場所となっている。それ以外にはチュウサギやアマサギなどのサギ類が牧草地の牛の回りに群れてエサをとる姿をよく見かけた。また、農耕地周辺の藪ではルリビタキやムジセッカなどが飛来し、越冬していた。さらに、公園の芝地や耕耘された畑などにはムナグロの小群が降りて採餌や休息していることがあった。

4) 森林や御嶽林などに生息する鳥類

森林地域では、表2に示したように大岳における早朝のラインセンサス調査を実施した。本調査では、留鳥のメジロ、ヒヨドリ、キジバト、キンバト、ズグロミゾゴイ（図版Ⅱ-6）、リュウキュウキビタキ（図版Ⅲ-1）、シジウカラなどの生息が確認

された。森林地域では特に夏場の時期に、ヒヨドリやオサハシブトガラス、メジロが優占的に生息していたが、最近帰化した外来種のインドクジャク（図版Ⅲ-2）の優占度もこれらの種に次いで優占度が高い傾向が見られた（表2）。また、本地域では雛を伴った雌個体が目撃され、繁殖も確認された。さらに、大岳の森林地域では留鳥のリュウキュウコノハズク（図版Ⅲ-3）が5月に抱卵しているのが確認された。他にリュウキュウキビタキが番（つがい）で観察されたことから、本種も本地域で繁殖している可能性が高い。

森林地域では、後述するようにしばしばカンムリワシ（図版Ⅲ-4）が観察されることがあったが、繁殖の確認はできなかった。おそらく西表島から漂鳥としての飛来であろうと思われる。

森林地域には夏場に夏鳥のアカショウビン飛来し、造巢する姿が確認され、同じ夏鳥のサンコウチョウのなき声が聞かれた。秋季の9月はじめには、旅鳥のアカハラダカの飛来が確認され、その後、サシバ、エゾビタキ、キマユムシクイ、シロハラなどの旅鳥

表2 大岳で確認された鳥類

調査期日	02. 2. 27		02. 5. 31	
天気	曇り		晴れ	
調査開始時間	7:20		7:15	
調査終了時間	7:45		7:50	
調査距離 (km)	0.5		0.5	
種名	個体数	相対優占度	個体数	相対優占度
ヒヨドリ	9	23.7	28	34.1
メジロ	5	13.7	9	11
ウグイス	5	13.7	0	
キジバト	5	13.7	4	4.9
リュウキュウキビタキ	3	7.9	2	2.4
キンバト	0		1	1.2
インドクジャク	3	7.9	7	8.5
ズグロミゾゴイ	0		3	3.7
アカショウビン	0		6	7.3
サンコウチョウ	0		5	6.1
シロハラ	2	5.3	0	
キマユムシクイ	2	5.3	0	
シロハラクイナ	1	2.6	4	4.9
ズアカアオバト	0		1	1.2
ヤブサメ	1	2.6	0	
サシバ	1	2.6	0	
ハシブトガラス	1	2.6	12	14.7
	38	100.0	82	100.0
種数合計17種	12		12	

や冬鳥の飛来が確認された。

大岳の森林地域以外では、島東部にある海岸林で、留鳥のツミとリュウキュウサンショウクイが確認された。特にリュウキュウツミ（図版Ⅲ-5）は2002年5月の調査でリゾート施設内森林でタブノキに営巣している1番が確認された。

小浜島で確認された鳥類

小浜島からは前述したように、古くは1904年6月のOsada and Osaによる採集記録をもとにOgawa (1905) によってルツクイナ（♀）やオサハシブトガラスの採集記録が知られ、その後は1921年の折居彪二郎氏による採集記録（齊藤・嵩原 2002参照）をまとめたKuroda (1925) によって、オサハシブトガラス、イシガキヒヨドリ、ミフウズラの3種の鳥類記録が報告されている。それ以降は鳥類の記録が乏しく、最近では八重山野鳥の会編（1983）によって、「八重山諸島鳥類目録」が作成され、293種の鳥類が記録されているが、その目録中に小浜島からコウノトリ（1981.11.29-82.3）とオオハクチョウ（1975.11.15）の2種の迷鳥記録が収録されている。また、琉球新報社編（1982）の「奄美・沖縄鳥類目録」の中では、小浜島と明記した鳥類記録と、生息範囲を八重山諸島と広域的に記述した鳥類記録を合計すると31種の分布記録が見られるが、これは日本鳥学会編（1974）の目録に大部分を準拠している。さらに、玉城（1985）は春期の調査で37種の鳥類を記録し、クイナとホオジロの希少な飛来種の記録を

報告している。他に嵩原ら（1996）は小浜島の湿地環境で21種、日本鳥学会編（2000）による「日本産鳥類目録（改訂）」中では生息分布地を小浜島と明記した20種の分布記録が示されている。しかしながら、その詳細な観察場所や日時等については記述していないものが多い。

今回の調査では前述したように91種の鳥類が記録された。その中にはこれまでに観察記録が報告されていないカンムリワシやオオバン、メダイチドリ、セイタカシギ、オグロシギ、ヤツガシラ（図版Ⅲ-6）など44種が新たに確認された。

今回の観察記録とこれまでに報告のある鳥類の生活様式をおおよその区分（留鳥・夏鳥・旅鳥・冬鳥、現状不明）でまとめ、巻末（付表1）に鳥類目録作成を試みた。その「小浜島の鳥類目録」（暫定）に示したように、小浜島においては合計11目35科112種の鳥類が記録されたことになるものと思われる。その鳥類をおおよその生息区分で分けると、図2に示したように、留鳥が33種（漂鳥や現状不明種含む）、夏鳥が3種、旅鳥及び冬鳥が75種、帰化種が1種あった。したがって、確認された鳥類の約7割は渡り鳥（飛来種）で占められている。しかしながら、数少ない留鳥の中には、八重山諸島が琉球列島の北限であるカンムリワシの生息が確認された。同様に宮古・八重山諸島が繁殖分布の北限であるキンバト、ズグロミゾゴイ、ムラサキサギの3種も確認され、石垣島や西表島と同様にこれらの鳥種の生息地となっていることは特筆されるべきことであろう。

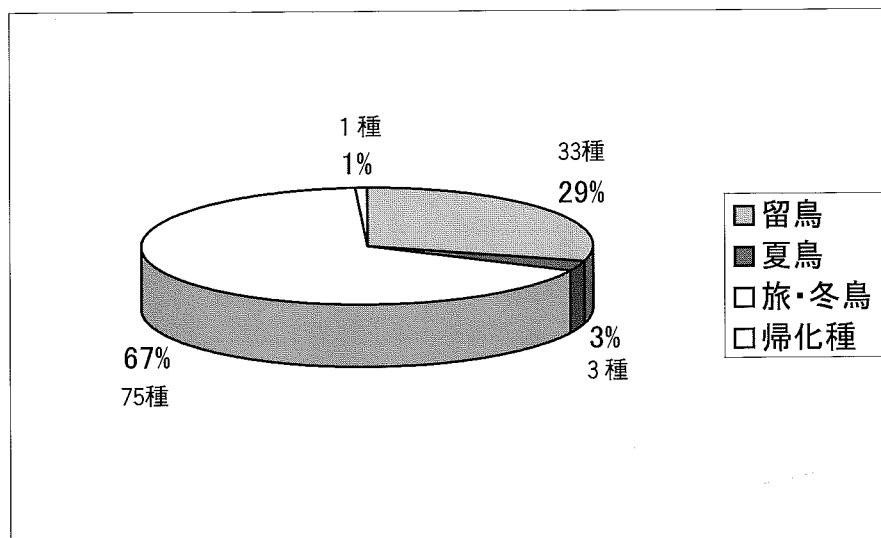


図2 小浜島の鳥区分

小浜島における鳥類の生息状況については、留鳥と帰化鳥、飛来種としての渡り鳥（夏鳥・旅鳥・冬鳥）に区分し、概観的に以下にまとめた。

1) 留鳥について

留鳥については、表3に示したように、暫定的に留鳥とした種や現状不明種を含み33種の鳥類が記録された。この中で繁殖確認されたのは、カルガモとコノハズク、リュウキュウツミの3種のみで、大部分の種については繁殖確認はできなかった。したがって、その大部分が八重山諸島における生息状況を加味して留鳥として扱った種が多い。また、この表に示された種の中には、カンムリワシのように繁殖は確認できなかったが、「漂鳥」として隣接する西表島から飛来している種をいくつか含んでいるものと思われる。なお、採集記録の見られるツルクイナは、八重山諸島では留鳥扱いをされている種である。しかしながら、本調査での生息確認できなかったため現状不明であるが、留鳥とした。さらに、八重山諸島に広く生息するとされるリュウキュウガモは、近年の生息状況が不明であることにより本報告では目録から除外してある。

玉城（1985）は小浜島から17種の留鳥を記録していることから、当時の調査に比べ16種留鳥の種数が増加したことになる。これは今回の調査では繁殖確認ができず漂鳥と考えられるカンムリワシやクロサギ、シロチドリ、現状不明種であるツルクイナ、そして、後述するように今日ふつうに生息し繁殖している可能性が高いゴイサギ、シマアカモズなどを含んでいることによる。また、玉城（1985）は夜間調査を実施していないことから夜行性の留鳥は記録は報告されていないが、今回の調査ではリュウキュウコノハズクとリュウキュウアオバズクが確認された。八重山諸島で通常留鳥として扱われているシロハラクイナ、ズグロミゾゴイ、ムラサキサギ、ヒクイナ、カワセミ、リュウキュウサンショウクイ、リュウキュウキビタキの8種は、当時は確認されていないことから、単に調査時に出現しなかったことも考えられるが、これらの中には新たに分布域を広げてきた種もいるものと思われる。

なお、県内では留鳥として扱われるカイツブリについては、八重山諸島では冬鳥として扱われているため（八重山野鳥の会、1983）、留鳥からは除

外した。また、小浜島に生息する留鳥の種数は、石垣島や西表島とほぼ同様な生息状況であるが、本調査では西表島に生息するオリエヤマガラとオリエコゲラの2亜種は確認されなかった。

さらに、留鳥の中には後述するように、島内東部のリゾート施設内で飼育されていた外来種のインドクジャクの数が増加し、リゾート施設内から逸出して、島全体に広がり農耕地や放牧地、森林地域など至る場所で観察され、広範囲に帰化している様子が見える。

これら確認された留鳥の中で、主な種類について5種（外来種含む）を取り上げ、以下にその生息状況をまとめた。なお、後述するように留鳥の中には環境省編（2002）や沖縄県自然保護課編（1996）により選定された保護すべき貴重種も含まれていることから、その生息状況については、貴重種の項目でまとめて示した。

a) カルガモ（図版II、写真1）

集落北方のヤマダの水田や島中央にあるマンツの湿地とその近くに開かれた水田域、島の西海岸であるスダ（石長田）海岸近くのマングローブ林、リゾート施設内のため池などで採餌する数個体がしばしば目撃された。特にマンツ湿地では2002年5月の調査で、雛を3個体連れた個体が目撃され、小浜島で繁殖していることが確認された。

b) ウグイス

本調査においては、冬季のみで確認された。八重山野鳥の会（1983）は、夏季に西表島で確認されている以外に記録が見られないことから、八重山諸島では冬鳥である可能性もあることを指摘しているが、玉城（1985）は4月の調査で確認し留鳥としている。本報告では暫定的に留鳥として扱っているが、沖縄県内で繁殖するとされる亜種リュウキュウウグイスの存在に疑問を呈する報告（梶田ら、2002）も見られるため、八重山諸島において留鳥かどうかの確認のためには、今後詳細な調査が必要と思われる。

c) ゴイサギ

八重山野鳥の会（1983）は、八重山諸島でほぼ周年生息していることを指摘しているが、繁殖の確認

表3 小浜島に留鳥として生息する種（暫定）

確認種	玉城 (1985)	生息環境	備考
リュウキュウヨシゴイ	◎	湿地・水田	
ゴイサギ		湿地・貯水池・水田	繁殖未確認
クロサギ		海岸	繁殖未確認（漂鳥？）
ズグロミゾゴイ		森林	
ムラサキサギ		牧場・牧草地・農耕地	
カルガモ	◎	湿地・ため池	繁殖確認
カンムリワシ		森林（海岸林）	繁殖未確認（漂鳥？）
ミフウズラ	◎	農耕地・草原	かなり少ない
ツルクイナ		水田・湿地	1904年に捕獲記録有り
オオクイナ	◎	森林・農耕地	
ヒクイナ		水田・湿地	亜種リュウキュウヒクイナ
シロハラクイナ		湿地・道路沿い・森林・農耕地	
バン	◎	湿地・ため池	
シロチドリ		海岸・岩礁	繁殖未確認（漂鳥？）
キジバト	◎	農耕地・牧場・農耕地	亜種リュウキュウキジバト
キンバト	◎	森林	
ズアカアオバト	◎	森林	亜種チュウク [*] イズアカアオバト
リュウキュウコノハズク		森林	繁殖確認
アオバズク		森林	亜種リュウキュウアオバズク
カワセミ		河川・池沼	繁殖未確認（漂鳥？）
リュウキュウツバメ		集落・農耕地	
サンショウクイ		森林	亜種リュウキュウサンショウクイ
シロガシラ	◎	農耕地	亜種ヤエヤマシロガシラ
ヒヨドリ	◎	森林・集落	亜種イシガキヒヨドリ
シマアカモズ		農耕地・牧草地	繁殖未確認# 1
ウグイス	◎	森林・草原	（冬鳥？）# 2
イソヒヨドリ	◎	集落・海岸	
セッカ	◎	牧場・農耕地	
キビタキ		森林	亜種リュウキュウキビタキ
シジュウカラ	◎	森林	亜種イシガキシジュウカラ
メジロ	◎	森林	亜種リュウキュウメジロ
スズメ	◎	集落・畜舎	
ハシブトガラス	◎	集落・牧場・農耕地	亜種オサハシブトガラス
合計33種	17種		

備考：本リストには漂鳥や繁殖未確認種、現状不明種を含む

1：八重山野鳥の会（1983）は冬鳥としている。

2：冬鳥（？）は八重山野鳥の会（1983）によるが、玉城（1985）は留鳥としている。

はしていない。本調査では初夏から夏季にも生息確認しているが、繁殖は確認されなかった。しかしながら、夏季に若鳥が数多く確認されることから小浜島では繁殖している可能性が高いように思われる。

沖縄野鳥研究会（2002）は、沖縄島では金武町や名護市において繁殖確認されていることを指摘している。したがって、八重山諸島でも留鳥として繁殖分布している可能性が十分考えられる。

d) シマアカモズ

八重山野鳥の会（1983）は、八重山諸島では冬鳥として扱っているが、筆者は与那国島において繁殖期にあたる夏季に尾羽が伸びきっていない本亜種の若鳥を確認している（高原、未発表）。したがって、八重山諸島では一部が繁殖している可能性が高いものと思われる。小浜島においても、初夏の時期に農耕地周辺でしばしば目撃していることから、本亜種の一部定着し繁殖している可能性が考えられ、暫定的に留鳥とした。しかしながら、繁殖確認など今後詳細な調査が必要であろう。

e) インドクジャク（外来種）

本種は島東方に所在するリゾート施設に愛玩用として1970年代に導入されたが、数が増加して、施設内から逸出して島全体に広がり、その生息個体数が増加している傾向が認められる。前述したように森林地域では、在来種に比べて相対的に優占度が高い傾向が認められることから、天敵のいないこの島ではほぼ定着していることが示唆される（図版Ⅲ、写真2）。

2002年2月の島全域を対象とした分布確認調査では、図2に示したようにリゾート施設をのぞき島全体で45個体が確認された。特に島北部の海岸林や大岳などの森林地域、「なかやまおん（御嶽）」のような御嶽林などでは見られる機会が多く、他に農耕地、牧場周辺などで採餌している個体がしばしば目撃された。

本種は餌として、主に植物種子や若芽を食し、その他にも昆虫、軟体動物、トカゲ、ヘビなど食べられそうな物は何でも食べるとされる（朝日新聞社編、1975）。したがって、こうした食性によって、地上

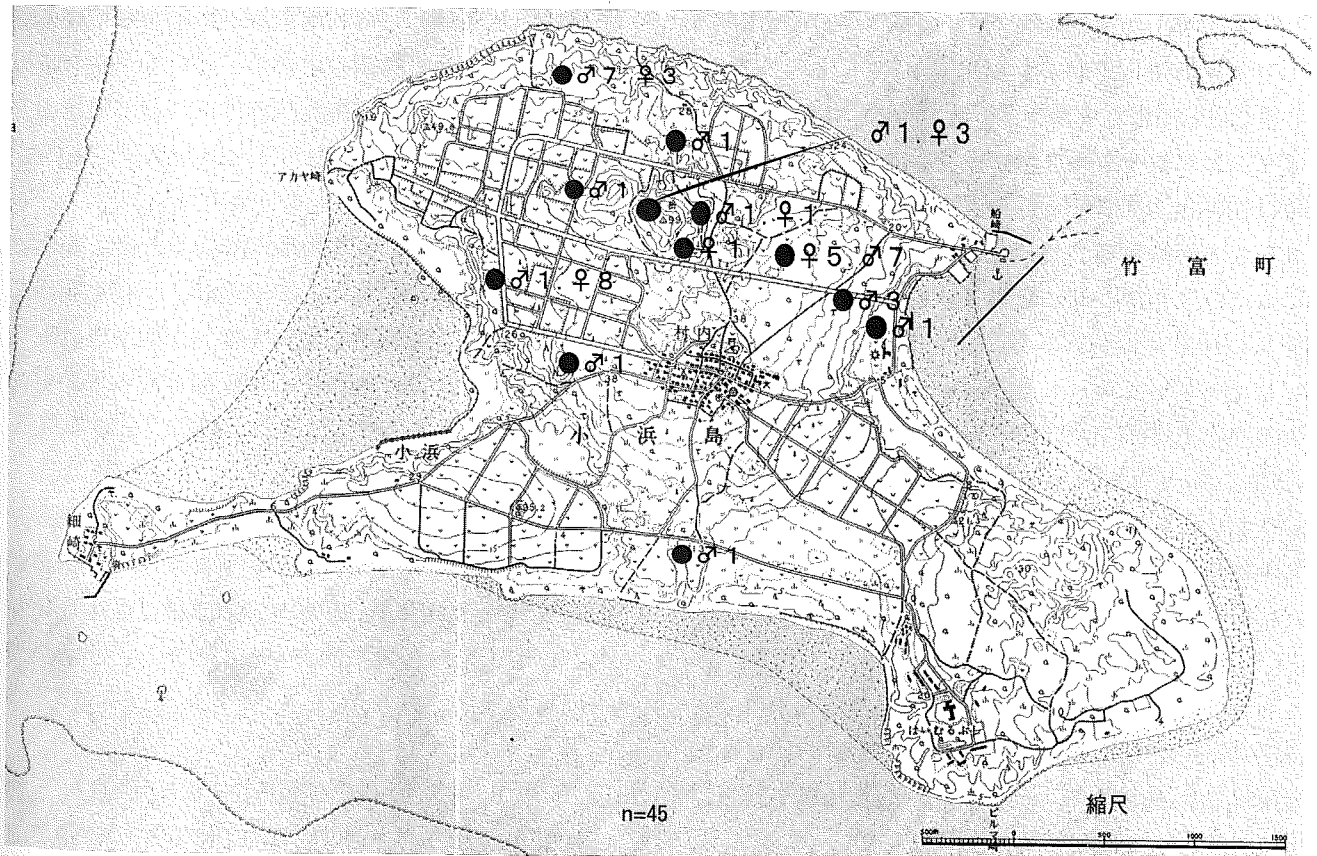


図2 クジャクの確認地（2002・2・26、8：00—19：00） 凡例：●確認地 （国土地理院発行1/25000地形図改変）
（備考：リゾート施設内は未調査）

を徘徊する在来の爬虫類や両生類などが餌となり、その種類数や生息個体数が激減していることが指摘され（田中・嵩原，2003）、島の自然環境に大きな影響を及ぼしていることが懸念される。このことから、本来の自然生態系を保全するためには、捕獲等の方法で早急に個体数をコントロールする必要があるものと思われる。

なお、同リゾート施設では自己責任において、リゾート施設外の島内各地に24カ所にもおよぶ箱形トラップを設置し、捕獲作業を行っている（目仲，私信）。したがって、徐々に施設外の個体数は今後減少していくものと思われる。

2) 飛来種について

飛来種については、夏鳥と旅鳥及び冬鳥に分け、その主な種について、生息状況等について以下に言及した。なお、渡来種の中にも環境省編（2002）や沖縄県自然保護課編（1996）による保護すべき貴重種として選定されている種が見られるが、これらの種は後述するように貴重種の項目でまとめて、その確認状況を示した。

ア) 夏鳥として飛来する種

夏鳥としては、アカショウビン、サンコウチョウ、エリグロアジサシの3種が確認された。八重山諸島では他にベニアジサシ、セグロアジサシ、クロアジサシなどが飛来市、繁殖することから、小浜島周辺でもこうしたアジサシ類の採餌個体が飛来するものと思われる。しかしながら、調査時間が短く、確認には至っていない。したがって、今後調査がすすむと夏鳥として飛来するアジサシ類の確認種数は増加するものと思われる。

大岳の森林地域では県内の他の島と同様にアカショウビンとサンコウチョウの2種が確認された。

a) アカショウビン

2002年6月の調査で大岳の森林内で枯死木に巣穴掘りを行っている個体を目撃した。おそらく、小浜島でも森林地域を中心に飛来し、繁殖活動を行っているものと思われる。

b) サンコウチョウ

2002年6月の調査で大岳の森林地域内で確認された。本地域も他の県内の島と同様に本種の夏季の繁殖地となっているものと思われる。

イ) 旅鳥及び冬鳥（迷鳥含む）として飛来する種 旅鳥としては、

水田や湿地、ため池、マングローブ干潟などの環境に旅鳥や冬鳥として飛来するシギ類として、オグロシギ、トウネン、イソシギ、セイタカシギ、アカアシシギなどが観察された。同様にサギ類としては、アオサギ、ダイサギ、コサギなどが見られた。また、土地改良区内のため池やハイバナの湿地、リゾート施設内にあるため池などには、ここで越冬するオオバンやキンクロハジロなどが飛来して来ていた。また、筆者による秋季（9月）における独自の調査で、大岳でアカハラダカ、リゾート施設内の海岸林でエゾビタキが確認された。また、リゾート施設内芝地では希少な旅鳥であるヤツガシラが確認された。したがって、小浜島はこれら旅鳥がより南下して越冬する際の中継地として、さらに冬鳥にとっては寒さを避けて越冬地として利用する場所になっている。

以下にこうした鳥類の中からそのいくつかを取り上げ、その生息状況や確認状況等について述べる。

a) アカハラダカ（旅鳥）

1995年9月25日に大岳で数羽を観察した。小浜島でも他の島同様に旅鳥として飛来し、一夜を明かし、早朝に飛び立ち通過していく様相が観察されたことから、本種の渡りのルートの一部となっていることが示唆される。

b) エリマキシギ（旅鳥）

2003年3月の調査で、ハインダの水田で1個体が観察された（図版Ⅱ，写真5）。本種は数少ない旅鳥として、県内各地に飛来することから、小浜島でも同様の飛来であろう。

c) オグロシギ（旅鳥及び冬鳥）

2002年5月の調査でスンダ（石長田）の湿地で2個体が観察された（図版Ⅱ，写真2）。本種は数少ない旅鳥として、県内各地に飛来する。

d) ヤツガシラ (旅鳥)

2002年3月の調査で、島東方のリゾート施設内芝地で1個体観察した(図版Ⅲ写真6)。県内では春季と秋季に通過していく希な旅鳥で、小浜島でも同様に旅鳥として立ち寄ってのものであろう。

e) セジロタヒバリ

2002年3月に小浜島で1個体が確認された(鈴木功氏私信)。本種は希な冬鳥あるいは迷鳥として飛来し(Douglas et al., 1996)、県内各地で記録されるが、小浜島からの確認はこれが初めてと思われる。

小浜島で記録された保護すべき貴重種と鳥類の種及びその生息地保全について

小浜島では過去の文献や本調査によって、国指定の特別天然記念物で国内貴重野生生物種指定のカンムリワシをはじめとして、環境省編(2002)によって選定されている「改訂日本の絶滅のおそれのある野生生物—鳥類編—」(以下NRDBと略記)と沖縄県自然保護課編(1996)によって選定されている「沖縄の絶滅のおそれのある野生生物」(以下ORDBと略記)の中で保護すべき種として選定されている貴重種が、表4に示したように30種確認された。その中で留鳥は18種とほぼ半数を占めている。したがって、島における人為的な改変にあたっては、これら貴重種を含む鳥類の種の保全とその生息する地域の保全に十分配慮することが重要と思われる。

そうすることでわれわれ人間側にとっても、潤いのある生活環境の維持と将来に引き継ぐことのできる豊かな自然環境を残すことができ、同時に将来的に島におけるエコツーリズムやエコミュージアムへの活用と学校教育における理科教育や環境教育等の学習の場としての利用が期待されるものと思われる。

以下にその貴重種の中から、留鳥と渡来種に分け、そのいくつかの種について生息状況や確認状況について述べる。

1) 留鳥の中における貴重種

a) ズグロミゾゴイ (NRDB:準絶滅危惧種 ORDB:希少種)

大岳や島西方のびるま崎(リゾート施設)に隣接

する海岸林でしばしば観察された。繁殖は確認されなかったが、おそらく海岸低地林や山手の森林地域を中心に留鳥として生息しているものと思われる。

b) カンムリワシ (特別天然記念物、NRDB:絶滅危惧ⅠA類、ORDB:絶滅危惧種)

本種は琉球列島では八重山諸島が北限の種で、国指定特別天然記念物である。本調査では図3に示したように、冬季の調査で島西部の海岸林や農耕地近くの残存林で採餌行動を行っているのべ4個体が目撃された。しかしながら、繁殖時期にあたる6月の調査では生息が確認できなかったことから、冬期に隣接する西表島からの漂鳥としての飛来個体である可能性が高いものと思われる。なお、島西方のスンダ(石長田)海岸林やマングローブ林、島中央部の大岳などでははまとまった形で森林が残存していることから、今後本種が繁殖地として利用する可能性は高いものと思われる。

最近日本野鳥の会八重山支部編(1998)では、石垣島と西表島で一斉カウント調査を実施し、両島で約200個体ほどのカンムリワシが生息していることが報告されている。しかしながら、この両島以外でのカンムリワシの生息実態についての調査は行われていないため小浜島からの本種の分布記録はこれまで知られていない。したがって、今後小浜島における繁殖の有無や個体数等について継続した調査が望まれる。

c) リュキュウツミ (NRDB:絶滅危惧Ⅱ類ORDB:希少種)

2002年5月の調査で、ナカワレに所在するリゾート施設内海岸林で営巣中の1番を確認した。本種は森林地域を中心に生息しているものと思われる。他にもおそらく大岳や島北部の海岸林、御嶽林等のまとまった森林地域で繁殖しているものと思われる。

d) ミフウズラ (ORDB:希少種)

2002年5月の調査によって、ナアカの農耕地でわずか1個体が確認されたのみである。本島では前述したように、ミフウズラと同様に地上を徘徊し、植物の種子や軟体動物、昆虫類などの小動物を採餌するタイプの鳥類であるインドクジャクが定着してい

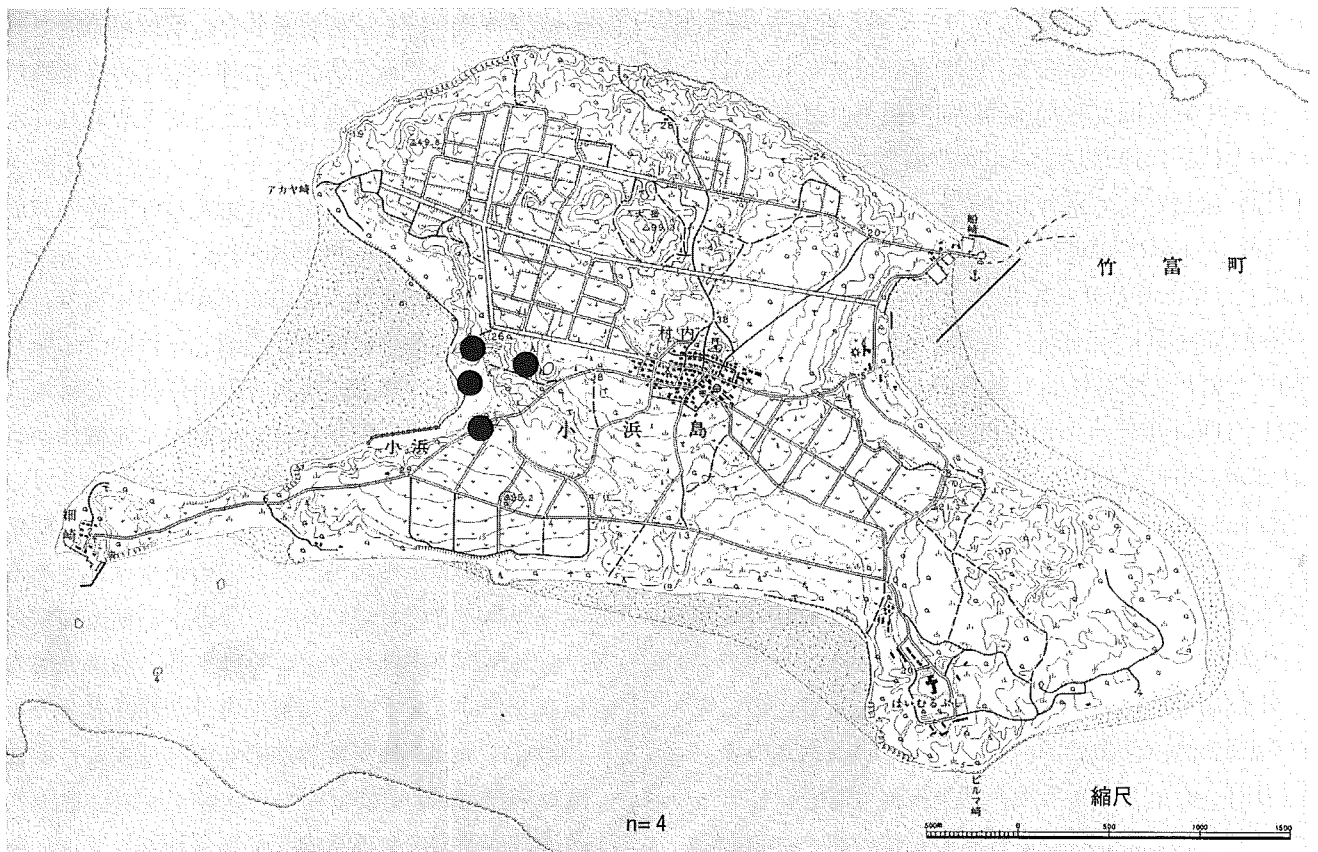


図3 カムリワシの確認地 (2002・2・25—2・27) (凡例：●確認地) (国土地理院発行1/25000地形図改変)

る。本種(体長11cm)に比較して、雄成鳥で体長220cmにもなるクジャクは、一日における餌の要求量も本種に比べ格段に多いことが予想される。したがって、ミフウズラとクジャクとは、一部の餌資源について競合関係があるものと思われ、インドクジャクが定着する以前のミフウズラの生息個体数については、何ら資料は得られていないが、本調査で観察された個体数がわずかであったことから、クジャクの定着とその個体数の増加は、本種の生息に何らかの影響を及ぼしていることが考えられる。

e) ツルクイナ (ORDB: 危急種)

Ogawa (1905) により、1904年6月18日に♀1個体の採集記録が知られているが、本調査では確認できなかった。クイナ類は水田や湿地などの水生生物を餌にしていることから、1904年の採集地も水田となっている。おそらく、本種は水田の減少とともに数を減らしているものと思われる。

本種は八重山諸島では繁殖記録があり、留鳥とされていることから、本島でも留鳥として生息している可能性がある。

f) シロチドリ (ORDB: 希少種)

細崎の砂浜海岸で30個体ほど群れて観察された。また、小浜港(埋め立て地)でハマシギと混群でねぐらをとる20個体ほどが観察された。しかしながら、本調査では繁殖の確認はできなかった。おそらく、島周囲の砂浜海岸などを中心に繁殖分布しているものと思われるが、他の島から飛来する漂鳥の可能性や一部冬鳥としての飛来もあるものと思われる。

g) リュウキュウキビタキ (ORDB: 危急種)

繁殖時期にあたる5~6月の調査で、図5に示したように大岳に残存する森林地域と島西方の海岸林で複数個体を確認した。したがって、石垣島や西表島と同様に繁殖個体群が存在していることが示唆される。

h) キンバト (国指定天然記念物、NRDB: 絶滅危惧IA類、ORDB: 絶滅危惧種)

図4に示したように、大岳の森林地域や製糖工場近くの海岸林でしばしば目撃された。本種も繁殖は確認できなかったが、森林地域を中心に留鳥として

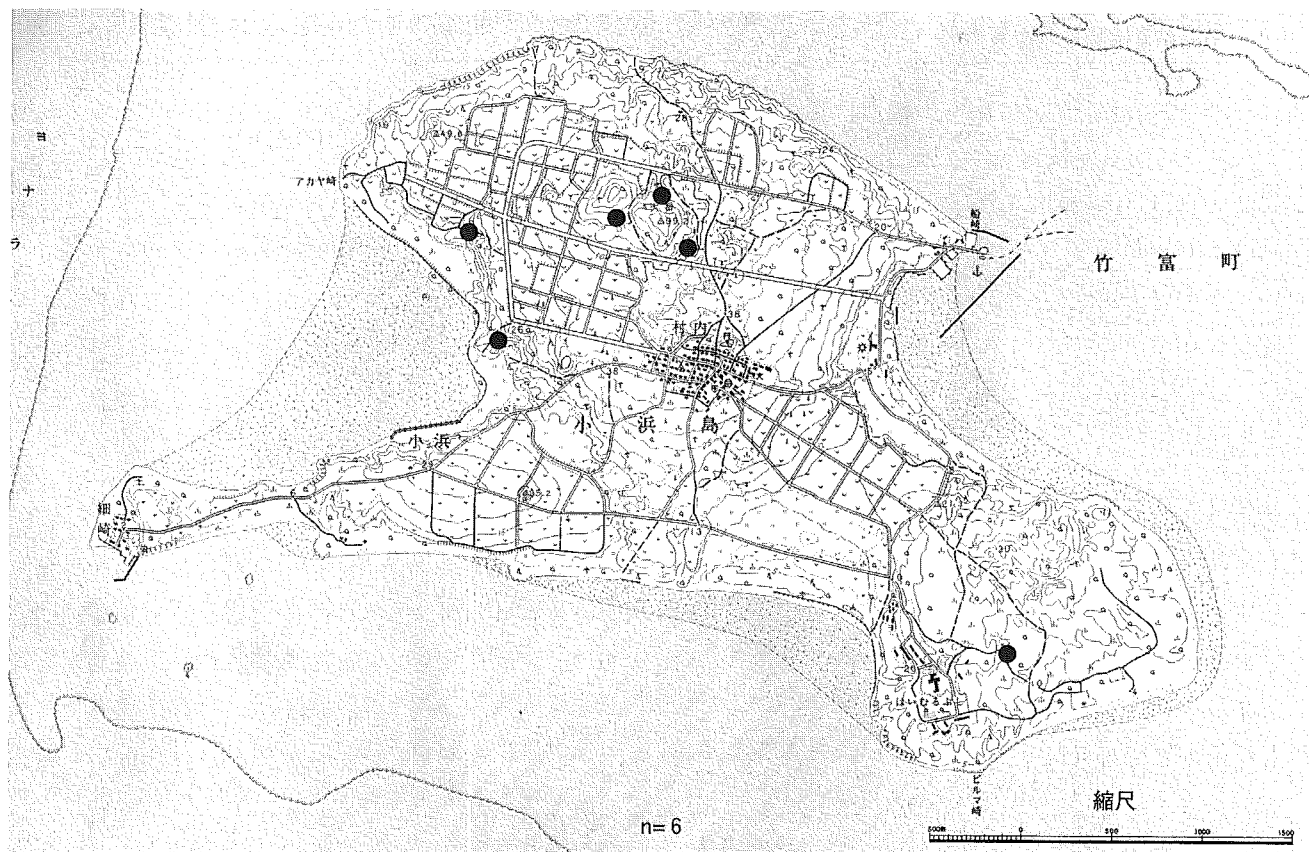


図4 リュウキュウキビタキの確認地 (2002・2・26-2・27) (凡例：●確認地) (国土地理院発行1/25000地形図改変)

生息しているものと思われる。

i) リュウキュウコノハズク (ORDB:希少種)

2002年6月には大岳周辺にある森林内でタカサゴシロアリの巣にできたうろ (おそらくアカショウビンの古巣) で営巣し、抱卵している個体が確認された。本種は夜間に集落周辺で鳴き声もよく聞かれる。

j) カワセミ (ORDB:希少種)

島西方にあるスダ (石長田) 海岸のマングローブ林に囲まれた池沼地でしばしば観察された。本種も繁殖は確認されなかったが、留鳥として少数が生息しているものと思われる。しかしながら、西表島に隣接していることから、西表島から漂鳥として飛来してくる個体もいる可能性は否定できない。

3) 飛来種の中における貴重種について

a) ミサゴ (NRDB:準絶滅危惧種 ORDB:危急種)

調査期間中、いずれの時期でも細崎海岸や島北方の海岸線などで飛翔する個体を目撃した。本種は魚食性のワシタカ類で、海岸線を餌場としていること

から、小浜島でも島の海岸線が餌場として利用しているものと思われる。

b) オオバン (ORDB:希少種)

冬期にリゾート施設内のため池や島中央のテナナにある湿地で1個体が観察された。本地域でも冬鳥としての飛来であろう。

c) セイタカシギ (NRDB:絶滅危惧 I B類 ORDB:希少種)

2002年5月の調査でスダ (石長田) の湿地で2個体が観察された。本種は数少ない冬鳥や旅鳥として県内各地に飛来することから、小浜島でも同様な冬鳥及び旅鳥であろう。

d) アカアシシギ (NRDB:絶滅危惧 II ORDB:希少種)

2002年5月の調査でスダ (石長田) の湿地で2個体が観察された。本種は数少ない旅鳥や冬鳥として、県内各地に飛来する。

表4 小浜島で確認された貴重種

種名	ランク区分			生息状況
	天然記念物	環境省版 (NRDB) (2002)	沖縄県版 (ORDB) (1996)	
コウノトリ	国指定特別 天然記念物	絶滅危惧 I A類	絶滅危惧種	希な冬鳥 (迷鳥)
カンムリワシ	国指定特別 天然記念物	絶滅危惧 I A類	絶滅危惧種	留鳥? (漂鳥)
キンバト	国指定天然記念物	絶滅危惧 I B類	絶滅危惧種	留鳥
ズグロミゾゴイ		準絶滅危惧種	危急種	留鳥
ムラサキサギ			危急種	留鳥
オオクイナ		絶滅危惧 II 類	危急種	留鳥
リュウキュウキビタキ			危急種	留鳥
カイツブリ			希少種	留鳥
リュウキュウヨシゴイ			希少種	留鳥
リュウキュウツミ		絶滅危惧 II 類	希少種	留鳥
ミフウズラ			希少種	留鳥
リュウキュウヒクイナ			希少種	留鳥
ツルクイナ			希少種	留鳥
シロチドリ			希少種	留鳥
カワセミ			希少種	留鳥
リュウキュウコノハズク			希少種	留鳥
リュウキュウサンショウクイ			希少種	留鳥
ヤエヤマシロガシラ			希少種	留鳥
イシガキシジュウカラ			希少種	留鳥
セイタカシギ		絶滅危惧 I B類	希少種	冬鳥
アカアシシギ		絶滅危惧 II 類	希少種	冬鳥
チュウビ		絶滅危惧 II 類		希な冬鳥
ツバメチドリ		絶滅危惧 II 類	危急種	冬鳥
コアジサシ		絶滅危惧 II 類	希少種	夏鳥
チュウサギ		準絶滅危惧種	希少種	冬鳥
ミサゴ		準絶滅危惧種	危急種	冬鳥
エリグロアジサシ		準絶滅危惧種	希少種	夏鳥
アカモズ		準絶滅危惧種		冬鳥
オオバン			希少種	冬鳥
ヤツガシラ			希少種	希な旅鳥

e) エリグロアジサシ (NRDB:準絶滅危惧種、ORDB:危急種)

2002年6月の調査で、細崎南東の岩礁(ハトパナリ)で休息する数個体を目撃した。おそらく、島のまわりにある岩礁で繁殖活動を行い、海岸近くで採餌行動を行っている可能性が考えられる。

調査課題

本調査では冬季に2回、夏季に1回の合計3回の調査を実施しただけであり、この調査回数では、小浜島における鳥類の生息状況を把握するには不十分と思われる。特に留鳥が繁殖を行う夏季の調査が不足しており、今回繁殖確認ができた種はわずか3種にとどまっている。したがって、今後、夏季における繁殖調査を含め、秋季の渡り鳥調査等調査の継続が望まれる。特に、前述したように国指定天然記念物で環境省編(2002)による絶滅危惧IA類であるカンムリワシをはじめとして、ズグロミゾゴイやリュウキュウキビタキなどの貴重種の繁殖の有無についての調査は、これらの種の生息地保全を考える上で不可欠と考えられるため、今後とも継続した調査が望まれる。

要約

1. 博物館総合調査の一環として、小浜島で鳥類調査を実施し、カンムリワシやキンバトなど92種の鳥類を確認し、環境ごとに生息する鳥類を概説した。

2. 本調査とこれまでの鳥類記録をまとめ、112種の小浜島鳥類目録(暫定)を作成した。その中には、外来種としてインドクジャクが帰化し島全域で見られるため、その食性を考慮すると本来の自然生態系がそこなわれる恐れがあり、その個体数管理の必要性を指摘した。

3. 確認された鳥類の中では環境省編(2002)や沖縄県自然保護課編(1996)で選定されている保護すべき貴重種が30種確認され、その種の保全や生息地の保全の必要性を指摘した。

文献

朝日新聞社事典編集室編 1975. 『朝日ラールス世界動物百科第8巻』朝日新聞社.

Douglas M., Ikenaga, H., Iozawa, H., Shoyama, M. and Takehara, K. 1996. A Check-list of the birds of Okinawa Prefecture with notes on recent status including hypothetical records. *Bulls Okinawa Pref Mus* (22) : 33-152.

藤波不二雄 1982. 春季の沖縄の野鳥. *Strix* (1) : 125.

梶田学・真野徹・佐藤文男. 2002. 沖縄島に生息するウグイス *Cettia diphone* の二型について—多変量解析によるリュウキュウウグイスとダイトウウグイスの再評価—. 山階鳥類研究所研究報告 33 : 148-167.

記念誌委員会(編) 1997. 『創立百周年記念誌うふたき』竹富町立小浜小学校.

Kuroda, NM. 1925. A Contribution to the Knowledge of the Avifauna of the Riu Kiu Islands and the Vicinity. published by the author, Tokyo.

環境省自然環境局野生生物課編. 2002. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック—, 2. 鳥類. 自然環境研究センター, 東京.

日本鳥学会編. 1974. 『日本鳥類目録 改訂第5版』日本鳥学会.

日本鳥学会編. 2000. 『日本鳥類目録 改訂第6版』日本鳥学会.

Ogawa M. 1905. Notes on Mr. Alan Owston's collection of birds from the islands lying between Kiushu and Formosa. *Annot. Zool. Jap.* 5:175-232.

沖縄県環境保健部自然保護課(編). 1996. 沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータおきなわ—. 沖縄県環境保健部自然保護課, 那覇.

沖縄県環境保健部自然保護課(編). 1997. 特殊鳥類生息環境調査 伊平屋島・久米島・南大東島・北大東島湿地編. 沖縄県環境保健部自然保護課, 那覇.

沖縄野鳥研究会(編). 2002. 沖縄の野鳥. 新報出版, 那覇.

- 嵩原建二・崎山陽一郎・庄山守・久貝勝盛・比嘉邦昭・池間幸男・山城正邦・大城亀信. 1996. 八重山諸島の主要な干潟及び湿地とその周辺地域における鳥類について. 特殊鳥類等生息環境調査IX 八重山湿地編. 沖縄県環境保健部自然保護課, pp. 1-53.
- 田中聡・嵩原建二. 2003. 先島諸島における野生化したクジャクの分布と現状について. 沖縄県立博物館紀要 (29) :19-24.
- 玉城常雄. 1995. 小浜島の鳥類とその生態. 沖生教研会誌 (18) :4-14.
- 齊藤郁子・嵩原建二. 2003. 折居彪二郎資料「大隅・琉球列島採集日誌 (1921) について」地域研究所叢書 1. 沖縄大学.
- 琉球新報社編. 1982. 奄美・沖縄の鳥類目録、写真集沖縄の野鳥. 62pp.
- 八重山野鳥の会編. 1982. 八重山地方鳥類目録. 10周年記念誌, pp. 28-38.
- 日本野鳥の会八重山支部編. 1998. カンムリワシ保護対策検討調査報告書.

図版 I 小浜島における調査地環境



写真1 大岳



写真2 大岳森林景観



写真3 小浜集落



写真4 ヤマンダの水田



写真5 石長田（イシンダ）の海岸



写真6 カタウレー湾とマングローブ林内の池

図版Ⅱ 小浜島で観察された鳥類（1）



写真1 カルガモ

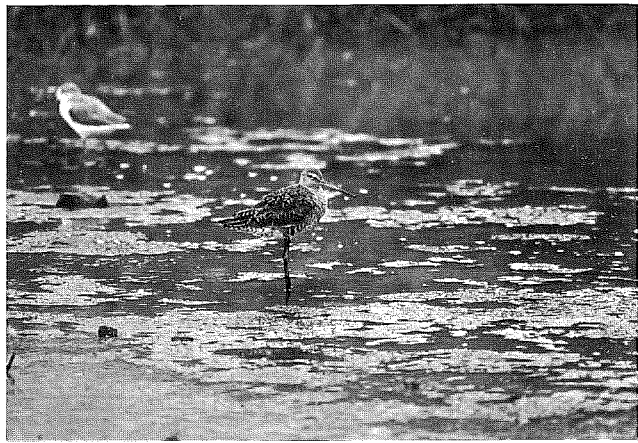


写真2 オグロシギ



写真3 ムラサキサギ



写真4 セイタカシギ（右2固体）



写真5 エリマキシギ



写真6 リュウキュウキビタキ（♀）

図版Ⅲ 小浜島で観察された鳥類（2）



写真1 ズグロミゾゴイ



写真2 インドクジャク（♂）



写真3 リュウキュウコノハズク（抱卵）



写真4 カンムリワシ

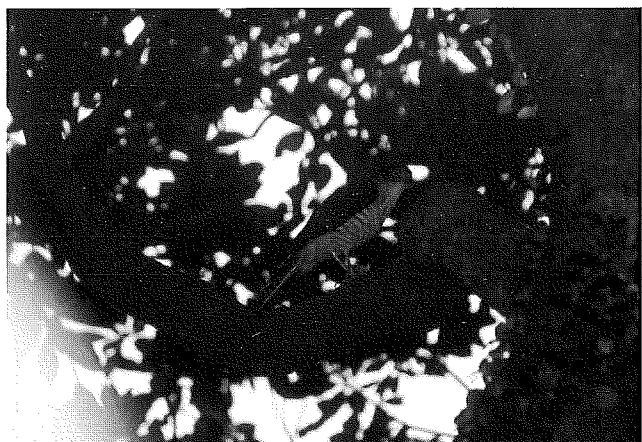


写真5 リュウキュウツミ



写真6 ヤツガシラ

付表1 小浜島鳥類目録 (暫定)

生息現状・特記事項等：R：留鳥、S：夏鳥、T：旅鳥 W：冬鳥 ST：迷鳥
 文献等：a：Douglas et al. (1996) b：八重山野鳥の会 (1982) c：Ogawa (1905)
 d：琉球新報社編 (1983) e：日本鳥学会編 (2000) f：藤波 (1982) g：玉城 (1985)

和名	学名	生息現状・特記事項等	文献等
カイツブリ目 PODICIPEDIFORMES			
カイツブリ科 PODICIPEDIDAE			
カイツブリ	<i>Tachybaptus ruficollis poggei</i>	W	
2002/2/25, 2003/3/6	リゾート施設ため池		
コウノトリ目 CICONIIFORMES			
サギ科 ARDEIDAE			
ゴイサギ	<i>Nycticorax nycticorax nycticorax</i>	WあるいはR	
2002/5/29	石長田マングローブ林湿地		
ササゴイ	<i>Butorides striatus amurensis</i>	W	
2002/5/29	石長田マングローブ林湿地		
アカガシラサギ	<i>Ardeola bacchus</i>	W (まれ)	
2002/5/29	石長田マングローブ林湿地		
リュウキュウヨシゴイ	<i>Ixobrychus cinnamoneus</i>	R	
2002/5/29	テンダの沈砂地		
アマサギ	<i>Bubulcus ibis coromandus</i>		
2002/5/29	テナヤやハイバナなどの農耕地・牧場		
ダイサギ	<i>Ardea alba modesta</i>	W	
2002/5/29	石長田マングローブ林湿地		
チュウサギ	<i>Egretta intermedia intermedia</i>	W	
2002/5/29	テナヤの農耕地・リゾート施設内芝地		
コサギ	<i>Egretta garzetta garzetta</i>	W	
2002/2/25, 5/29	マングローブ湿地・中央湿地		
クロサギ	<i>Egretta sacra sacra</i>	R	
2002/2/25	細崎・小浜港		
アオサギ	<i>Ardea cinerea jouyi</i>	W	
2002/2/25, 2003/3/6	石長田マングローブ湿地・小浜港		
ムラサキサギ	<i>Ardea purpurea manilensis</i>	R	
2002/2/25, 2003/3/6	ハインダの農耕地・牧場		
コウノトリ科 CICONIIDAE			
コウノトリ	<i>Ciconia ciconia boyciana</i>		
1981/11/29-1982/3	小浜島西方海岸(成鳥2, 若鳥1)	ST(w)	a, b, f
ガンカンモ目 ANSERIFORMES			
ガンカモ科 ANATIDAE			
オオハクチョウ	<i>Cygnus cygnus</i>	ST(w)	a, b
1975/11/26	小浜島		
カルガモ	<i>Anas poecilorhyncha zonorhyncha</i>	R	
2002/2/25, 5/29, 2003/3/6	マングローブ湿地、水田、中央湿地		
コガモ	<i>Anas crecca crecca</i>	W	
2002/2/25	マングローブ湿地、水田、中央湿地		
ヒドリガモ	<i>Anas penelope</i>	W	a
	小浜島		d
シマアジ	<i>Anas querquedula</i>	W	a, c
	小浜島		
ハシビロガモ	<i>Anas clypeata</i>	W	
2002/2/25	石長田マングローブ湿地		
キンクロハジロ	<i>Aythya fuligula</i>	W	

和名	学名	生息現状・特記事項等	文献等
2002/2/25	リゾート施設内ため池		
タカ目 FALCONIFORMES			
タカ科 ACCIPITRIDAE			
ミサゴ	<i>Pandion haliaetus haliaetus</i>	W	
2002/2/25, 2003/3/6	細崎・小浜港		
アカハラダカ	<i>Accipiter soloensis</i>	T	
1995/9/25	大岳 (26 個体)		
リュウキュウツミ	<i>Accipiter gularis</i>	R(繁殖:リゾート施設内森林)	
2002/2/25, 5/31	大岳・リゾート施設内森林		
チュウビ	<i>Circus spilonotus spilonotus</i>	W	
2002/2/25	リゾート施設内海岸林		
サシバ	<i>Butastur indicus</i>	W・T	
2002/2/25	島内各地		
カンムリワシ	<i>Spilornis cheela perplexus</i>	R	
1995/9/25	リゾート施設内海岸林		
ハヤブサ科 FALCONIDAE			
チョウゲンボウ	<i>Falco tinnunculus interstinctus</i>	W	
2002/2/25	島内各地		
キジ目 GALLIFORMES			
キジ科 PHASIANIDAE			
インドクジャク	<i>Pavo cristatus</i>	R(外来種)	
	島内各地 (帰化)		
ツル目 GRUIFORMES			
ミフウズラ科 TURNICIDAE			
ミフウズラ	<i>Turnix suscitator okinavensis</i>	R	
2002/5/29			
クイナ科 RALLIDAE			
クイナ	<i>Rallus aquaticus</i>	W	g
リュウキュウヒクイナ	<i>Porzana fusca phaeopyga</i>	R	
2003/3/6	中央湿地		
オオクイナ	<i>Rallina eurizonoides sepiaria</i>	R	
1995/9/25	石長田マングローブ林		
シロハラクイナ	<i>Amaurornis phoenicurus chinensis</i>	R	
2002/2/25, 2003/3/6	石長田マングローブ林・水田		
ツルクイナ	<i>Gallinix cinerea</i>	R?(現状不明)	
1904/6/18	小浜島	♀	c
バン	<i>Gallinula chloropus indica</i>	R	
2002/2/25, 2003/3/6	石長田マングローブ林・水田		
オオバン	<i>Fulica atra</i>	W	
2002/2/25, 2003/3/6	中央湿地・リゾート施設内ため池		
チドリ目 CHARADRIIFORMES			
チドリ科 CHARADRIIDAE			
コチドリ	<i>Charadrius dubius curonicus</i>	W	
シロチドリ	<i>Charadrius alexandrinus nihonensis</i>	R	
2002/2/25, 2003/3/6	石長田マングローブ林湿地		
メダイチドリ	<i>Charadrius mongolus stegmanni</i>	T	
1995/9/25	石長田マングローブ林湿地		
2002/2/25, 2003/3/6	細崎海岸		

和名	学名	生息現状・特記事項等	文献等
ムナグロ	<i>Pluvialis dominica fulva</i>	W	
2002/2/25, 2003/3/6	細崎海岸		
ダイゼン	<i>Pluvialis Squatarola</i>	W	
2002/2/25, 2003/3/6	細崎海岸		
シギ科 SCOLOPACIDAE			
キョウジョシギ	<i>Arenaria interpres interpres</i>	T	
1995/9/25	石長田マングローブ林湿地		
2002/2/25, 2003/3/6	細崎海岸		
トウネン	<i>Calidris ruficollis</i>	W	
2002/5/29	石長田マングローブ林湿地		
ウズラシギ	<i>Calidris acuminata</i>	T	
2002/5/29	石長田マングローブ林湿地		
ハマシギ	<i>Calidris alpina sakhalina</i>	W	
2002/2/25, 2003/3/6	細崎海岸・小浜港		
コオバシギ	<i>Calidris canutus rogersi</i>	T	
2002/5/29	石長田マングローブ林湿地		
エリマキシギ	<i>Philomachus pugnax</i>	T	
2003/3/6	ハインダの水田		
アカアシシギ	<i>Tringa totanus ussuriensis</i>	W	
2002/5/29	石長田マングローブ林湿地		
アオアシシギ	<i>Tringa nebularia</i>	W	
1995/9/25	石長田マングローブ林湿地		
2002/2/25, 2003/3/6	細崎海岸		
コアオアシシギ	<i>Tringa stagnatillis</i>	W	
1995/9/25	石長田マングローブ林湿地		
クサシギ	<i>Tringa ochropus</i>	W	
2003/3/6	石長田マングローブ林湿地		
タカブシギ	<i>Tringa glareola</i>	W	
2002/5/29	石長田マングローブ林湿地		
キアシシギ	<i>Tringa brevipes</i>	T	
1995/9/27	マングローブ湿地		
イソシギ	<i>Tringa hypoleucos</i>	W	
2002/2/25.5/29	リゾート施設内芝地		
オグロシギ	<i>Limosa limosa melanuroides</i>	T	
2002/5/29	石長田マングローブ林湿地		
ヤマシギ	<i>Scolopax rusticola</i>	W	
2002/2/25	リゾート施設内芝地		
タシギ	<i>Gallinago gallinago gollinago</i>	W	
2002/2/25, 2003/3/6	石長田マングローブ林湿地		
ダイシャクシギ	<i>Numenius arquata orientalis</i>	T	
2002/2/25	石長田マングローブ林湿地		
チュウシャクシギ	<i>Numenius phaeopus uarigatus</i>	T	
1995/9/27, 2002/2/25	石長田マングローブ林湿地		
セイタカシギ科 RECURVIROSTRIDAE			
セイタカシギ	<i>Himantopus himantopus himantopus</i>	W	
2002/5/29	石長田マングローブ林湿地		
ツバメチドリ科 GLAREOLIDAE			
ツバメチドリ	<i>Glareola maldivarum</i>	T	d, e

和名	学名	生息現状・特記事項等	文献等
	小浜島		
カモメ科 LARIDAE			
エリグロアジサシ	<i>Sterna sumatrana sumatrana</i>	S	
2002/5/29	細崎海岸		
クロハラアジサシ	<i>Sterna hybrida javanica</i>	T	
1995/9/25	石長田マングローブ林湿地		
ハト目 COLUMBIFORMES			
ハト科 COLUMBIDAE			
リュウキュウキジバト	<i>Streptopelia orientalis stimpsoni</i>	R	
2002/2/25, 2003/3/6	島内各地		
チュウアイアカハト	<i>Treron formosae permagnus</i>	R	
2002/2/25	大岳		
キンバト	<i>Chalcophaps indica yamashinai</i>	R	
2002/2/25, 2003/3/6	海岸林・大岳		
フクロウ目 STRIGIFORMES			
フクロウ科 STRIGIDAE			
リュウキュウコノハズク	<i>Otus scops elegans</i>	R	
1995/9/25	大岳		
リュウキュウアオバズク	<i>Ninox scutulata totogo</i>	R	
1995/9/25	リゾート施設内海岸林		
2002/2/25	リゾート施設内海岸林		
アマツバメ目 APODIFORMES			
アマツバメ科 APODIDAE			
アマツバメ	<i>Apus pacificus kurodae</i>	T	
1995/9/26	リゾート施設内海岸		
ブッポウソウ目 CORACTIFORMES			
カワセミ科 ALCEDINIDAE			
アカショウビン	<i>Halcyon coromanda major</i>	S	
2002/5/29	大岳		
カワセミ	<i>Alcedo atthis bengalensis</i>	R	
1995/9/25	石長田マングローブ林内湿地		
ヤツガシラ科 UPUPIDAE			
ヤツガシラ	<i>Upupa epops saturata</i>	T	
2002/2/25	リゾート施設内芝地		
スズメ目 PASSERIFORMES			
ツバメ科 HIRUNDINIDAE			
ツバメ	<i>Hirundo rustica gutturalis</i>	T	
2002/2/25, 2003/3/6	集落		
リュウキュウツバメ	<i>Hirundo tahitica namiyei</i>	R? (漂鳥?)	
	小浜島		d
セキレイ科 MOTACILLIDAE			
ツメナガセキレイ	<i>Motacilla flava</i>	T/W	
1995/9/25	マゴスの農耕地		
キセキレイ	<i>Motacilla cinerea robusta</i>	W	
2002/2/25, 2003/3/6	マゴスの農耕地		
ハクセキレイ	<i>Motacilla alba lugens</i>	W	
2002/2/25, 2003/3/6	マゴスの農耕地		
ホオジロハクセキレイ	<i>Motacilla alba leucopsis</i>	W	

和名	学名	生息現状・特記事項等	文献等
2003/3/6	マゴスの農耕地		
セジロタヒバリ	<i>Anthus gustavi gustavi</i>	W	
2002/3/1	小浜島	鈴木私信	
ムネアカタヒバリ	<i>Anthus ceevinus</i>	W	
	小浜島		d
サンショウクイ科CAMPEPHAGIDAE			
リュウキュウサンショウクイ	<i>Pericrocotus divaricatus tegimae</i>	R	
1995/9/25	リゾート施設内海岸林		
ヒヨドリ科 PYCNONOTIDAE			
シロガシラ	<i>Pycnonotus sinensis orii</i>	R	
2002/2/25, 5/29, 2003/3/6	ヤマダの農耕地		
イシガキヒヨドリ	<i>Hypsipetes amaurotis stejnegeri</i>	R	
2002/2/25, 2003/3/6	森林・農耕地		
モズ科LANIIDAE			
モズ	<i>Lanius bucephalus bucephalus</i>	W	
1995/9/25	リゾート施設内海岸林		
シマアカモズ	<i>Lanius cristatus lucionensis</i>		
200/2/25, 2003/3/6	マゴスの農耕地	R?	
ツグミ科 TURDINAE			
ジョウビタキ	<i>Phoenicurus aureus aureus</i>	W	
200/2/25, 2003/3/6	リゾート施設内海岸林		
ルリビタキ	<i>Tarsiger cynurus</i>	W	
2003/3/6	テナナの農耕地		
イソヒヨドリ	<i>Monticola solitarius philippensis</i>	R	
200/2/25, 2003/3/6	集落・細崎海岸・小浜港		
シロハラ	<i>Turdus pallidus</i>	W	
200/2/25, 2003/3/6	大岳・リゾート施設内海岸林		
アカハラ	<i>Turdus chrysolaus chrysolaus</i>	W	
200/2/25, 2003/3/6	大岳・リゾート施設内海岸林		
マミチャジナイ	<i>Turdus obscurus</i>	W	
2003/3/6	大岳		
ツグミ	<i>Turdus naummanni eunomus</i>	W	
2003/3/6	リゾート施設内芝地		
ウグイス亜科 SYLVIINAE			
ヤブサメ	<i>Cettia sguamiceps</i>	W	
2002/2/27	大岳		
ウグイス	<i>Cettia diphone</i>	R? (W?)	
200/2/25, 2003/3/6	大岳・リゾート施設内海岸林		
セッカ	<i>Cisticola juncidis bruniceps</i>	R	
200/2/25, 2003/3/6	農耕地・牧草地など		
キマユムシクイ	<i>Phylloscopus inornatus inornatus</i>	W	
200/2/25, 2003/3/6	大岳・リゾート施設内海岸林		
ムジセッカ	<i>Phylloscopus fuscatus fuscatus</i>	W	
200/2/25, 2003/3/6	テナナの農耕地		
ヒタキ科MUSCICAPIDAE			
エゾビタキ	<i>Muscicapa griseisticta</i>	T	
1995/9/25	リゾート施設内海岸林		
リュウキュウキビタキ	<i>Ficedula narcissina</i>	R	

和名	学名	生息現状・特記事項等	文献等
2002/5/29	大岳・リゾート施設内海岸林		
カササギヒタキ亜科 MONARCHINAE			
リュウキュウサンコウチョウ	<i>Terpsiphone atrocaudata</i>	S	
2002/5/29	大岳		
シジュウカラ科 PARIDAE			
イシガキシジュウカラ	<i>Parus major okinawae</i>	R	
200/2/25, 2003/3/6	大岳		
メジロ科 ZOSTEROPIDAE			
リュウキュウメジロ	<i>Zosterops japonica loochooensis</i>	R	
200/2/25, 2003/3/6	大岳・リゾート施設内海岸林		
ホオジロ科 EMBERIZIDAE			
ホオジロ	<i>Emberiza cioides</i>	W	g
アオジ	<i>Emberiza spodocephala personata</i>	W	
2003/3/6	大岳		
アトリ科 FRINGILLIDAE			
オオカワラヒワ	<i>Carduelis sinica kawarahiba</i>	W	
	小浜島		d, e
ハタオリドリ科 PLOCEIDAE			
スズメ	<i>Passer montanus saturatus</i>		
200/2/25, 2003/3/6	集落・農耕地	R	
ムクドリ科 STURNIDAE			
ムクドリ	<i>Sturnus cineraceus</i>	W	
2002/2/25	マゴスの農耕地		
ギンムクドリ	<i>Sturnus sriceus</i>	W	
2002/2/25	マゴスの農耕地		
カラムクドリ	<i>Sturnus sinensis</i>	W	
1995/9/25	リゾート施設内 (5 個体)		
カラス科 CORVIDAE			
オサハシブトガラス	<i>Corvus macrorhynchos</i>	R	c, d, e
200/2/25, 2003/3/6	集落・森林・農耕地など		